

教科等研究会（小・中学校書写部会） 平成28年度 教科等のまとめ

1 研究テーマ

自分の書いた文字が好きになり、書くことに意欲が持てる書写指導の在り方
～自ら気づき、高められる実践を求めて～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回		
6/9	9名	広安小	8/6	白旗小	松岡教諭	3/2	実践報告会	広安小

3 研究の概要

（1）研究の内容

本年度、さらに研究を進めていくために、昨年度と同様にテーマを引き続き同じものとした。

「書いた文字が好きになり」とは、ポイントをつかんだ練習をすることで、よりよく変化していき、その変化により自分の書いた文字に自信が持てるようになることと考える。そして、その自信が「書くことに意欲が持てる」ことにつながっていくと考える。

「自ら気づき」とは、書くこと→ポイントをつかんだ練習→清書→評価という流れの中で、『お手本に近づくためには』『相手が見やすいためには』どのような改善が必要かを自ら考えることであり、「高められる」とは、自分が活動していることに目的意識をしっかり持ち、より良い作品作りや日常の書く活動につながられるような実践を追及していくことだと考える。また、評価活動の中には、自分の言葉や文字で表現する場面を設定し、言語能力を鍛え、課題の分析により、明確に意欲を持った学習活動が展開されることをねらっていく。

研究授業は、小学校と中学校が交互に担当し、相互の立場から意見交換する形で研究を進めている。しかし、小・中学校では、ねらいや授業内容がそれぞれ異なるため、1回の授業研究会では実践力の向上を図ることが難しい。そこで、年度末に、一人一人の授業実践を発表し意見交換を行う実践報告会を設けている。会の中では、書写の楽しさを指導したり技術を高めたりする指導方法が多く報告された。また、たくさんの意見交換ができとても参考になった。

（2）成果と課題

本年度の授業研究会は小学校が担当し、3年生の「曲がり（ひらがな）つり」（毛筆）であった。本授業では、「曲がり」の筆使いやひらがなの字形に注意して、「つり」を書くことができることをねらいとした。

授業の導入では、子どもたちがポイントをつかんで練習していくことができるように、予めポイントに目がいくような文字が書かれたカードを提示して、文字への関心を高める手立てがあった。これにより、前時で子どもたちが気付いた文字のポイントを振り返ることができ、気を付けることを焦点化することができた。また、薄墨を含ませた筆の穂先に朱墨をつけ、児童に書かせる活動を取り入れることで、穂先の動きを視覚的に捉えることができ、ひらがなの「曲がり」の穂先の通り道を理解することができた。また、穂先の運びについての指導方法や道具の片付け・管理の仕方について、小中学校とも共通して課題となるところがあり、それぞれの立場で実践を出し合うことができた。

小中学校合同の部会なので、指導についても小中の連携を考えながら意見交換していくことができた。それぞれの先生方はいろいろな指導方法を持っておられるので、年度初めの会で指導方法について交流し、それを各自持ち帰ってから実践した上で、年度末の実践報告会を行うのも、研究が深まり、よかったのではないかと思った。

4 実践事例

(1) 授業の概要

《授業者自評》

- ・初めてのひらがなの学習になり、字形の丸みにも気付かせたかったので、導入で横長・縦長の字形に視点を置いたカードを示した。子どもたちから気付きもでたし、気を付けて書くことができていたと思う。
- ・練習用紙の種類について、本時では3種類の練習用紙を準備しておいたが、効果的だったのかご意見をいただきたい。

《研究協議の内容》

- ・導入で本時のポイントに気付かせるために提示された文字が特徴を捉えていたので、子どもたちもすぐにポイントをつかむことができた。
- ・まとめる場面で書かせた振り返りでは、上手に書くことができたかどうかより、本時のめあてに対してできたかどうかを書かせるとよかったのではないかな。
- ・4枚清書した中から1枚を選ぶときに、なぜその作品を選んだのかを書かせると、ポイントに沿って、作品を振り返ったのではないかな。

(2) 学習指導案

第3学年 国語科（書写）学習指導案

平成28年11月17日（木）第5校時

場所：3年教室

指導者：甲佐町立白旗小学校教諭 松岡さゆり

1 単元名 「曲がり」（ひらがな）〈つり〉 [東京書籍]

2 単元について

(1) 単元のねらい

①学習指導要領における位置づけ

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

書写に関する事項

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。

ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。

②児童はこれまで毛筆を使用して「横画」「縦画」「おれ」「はらい」「はね」といった基本的な筆使いについて学習してきた。今回の教材「つり」は児童にとって毛筆での初めてのひらがな教材である。

本単元では、これまでの硬筆での学習を生かすとともに、3年生になって学習している毛筆での姿勢・筆の持ち方・筆使いを基礎にして、ひらがなの「曲がり」の書き方やひらがなの筆使い、字形を学ぶために、毛筆で「つり」を書く活動を行う。本単元の主な教材である「つり」で扱う「曲がり」は、緩やかな曲線で書き、筆の軸は回さないで、穂先を画の上から左にゆっくり移す。ひらがなの「曲がり」は「つ」以外にも、「と・う・ふ・ゆ・め・あ」など多くの文字にある。画数が少なく、児童が苦手意識を持たずに書くことができる「つ」を練習することを通して、ひらがなの「曲がり」の筆使いや穂先の通り道を理解し、普段の自分自身の文字を見直す機会になると考える。

(2) 児童の実態

本学級は男子10名、女子7名の計17名の学級である。今年度から毛筆の学習を始めている。準備や後片付けに時間がかかる児童が数名いる。

児童の意識調査の結果（１１月実施 １７名）

①字を上手に書きたいと思いますか。	はい１６人	いいえ１人
②書写の時間は好きですか。	好き・どちらかというとき １５人	どちらかというとき嫌い ２人
③好きな理由	楽しいから。 静かに字を書くのが好き。 字が上手になるから。	
④嫌いな理由	準備や片付けが面倒 習字は鉛筆みたいに上手に書けない	

字を上手に書きたいという思いはほとんどの児童が持っている。しかし、普段のノートの字を丁寧に書くことにはかなり個人差がある。ゆっくり丁寧に書くのでかなりの時間がかかる児童、止め・はねなどへの意識が足りず、形が整わない児童が数名いる。

毛筆に関しては、普段の鉛筆と違い、筆という道具を使って書くので楽しいと感じている児童が多い。しかし、好きだと思うような字が書けないと感じている児童もいる。用具の使い方や筆使いなど、今後も繰り返し指導を行い、「書けた」「上手になった」という成就感を感じさせていきたい。

（３）指導上の留意点

○ポイントをつかんだ練習の工夫について

- ・毎時の導入では、あらかじめポイントに目がいくような文字が書かれたカードを提示し、文字への関心を高める。
- ・「つり」に関しては、「曲がり」のほかにも、横長・縦長の字形、はらい、点画のつながりなどのポイントが考えられるが、本単元では、「曲がり」を重点ポイントとして指導する。
- ・薄墨を含ませた筆の穂先に朱墨をつけ、児童が穂先の動きを視覚的に分かりやすくする。

○一人一人がめあてをもって取り組む工夫について

- ・毛筆では、前時の自分の文字とお手本を比べ、お手本に近づくためには、どこを工夫すればいいのか考えさせ、めあてを持たせる。
- ・めあてカードは、筆使いと字形の二つの視点から立てさせる。
- ・硬筆では自分のノートの文字を振り返らせ、毛筆で学んだことを自分の文字に生かせるようにする。

３ 単元の目標

【毛筆】◎ひらがなの「曲がり」の筆使いを理解する。

○ひらがなの「曲がり」の穂先の通り道を理解する。

○「つり」を字形を整えて書く。

【硬筆】◎硬筆で、ひらがなの「曲がり」の書き方に注意して書く。

４ 指導計画（３時間取扱い）

	主な学習内容	評価計画
１	・「つり」を曲がりの部分の書き方と穂先の通り道に注意して毛筆で練習する。	・「曲がり」の筆使い（筆の軸を回さず、緩やかな曲線で書く）を理解し、穂先の通り道を正しく書いている。 （関心・意欲・態度）（知識・理解）（技能）
２ 本時	「曲がり」の書き方について復習し、ひらがなの筆使いや「つり」の字形に気をつけて練習する。 「つり」のまとめ書きをする。	・「曲がり」の筆使いを理解し、始筆や丸みのひらがなの筆使いや横長・縦長の字形を整えて、「つり」を書いている。 （関心・意欲・態度）（知識・理解）（技能）
３	・ひらがなの「曲がり」に気をつけて、鉛筆で練習する。	・ひらがなの「曲がり」に気をつけて、字形を整えて書いている。 （関心・意欲・態度）（知識・理解）（技能）

5 本時の学習（2／3時間）

（1）目標 「曲がり」の筆使いやひらがなの字形に注意して、「つり」を毛筆で書くことができる。

（2）展開

過程	学習活動 発問(○) 指示(●) 児童の反応(c)	指導上の留意点	準備物(・) 評価
めあてをつかむ 4分	学習用具の準備をする。 1 前時を振り返り、本時のめあてを知る。 ○「つり」をもっとかっこよく書くにはどうすればいいのかな。 c「つ」は横長にする。 c「り」はたて長にする。 「曲がり」の筆使いやひらがなの字形に気をつけて「つり」を書こう。	◇授業が始まるまでに、習字道具、筆洗いペットボトルを準備できるように配置図で示す。 ◇「曲がり」の筆使いや穂先の通り道について、拡大文字やポイントカードを使って確認する。 ◇前時の朱墨を含ませて書いた半紙を見て気づかせる。 ◇横長・縦長の字形に視点をのいた文字カードを示し、改善点を出させる。	配置図 拡大文字 ポイントカード 文字カード めあてカード
しっかり考える 16分	2 自分のめあてを考える。 ●自分のめあてをカードに書きましょう。 3 「つり」を練習する。	◇各自のめあてカードに、筆使いと字形の二つの項目にめあてを書かせる。 ◇黒板に、本時のポイントとなる視点をまとめておき、その中から自分のめあてを選べるようにする。 ◇「曲がり」の穂先の向きが分かる練習用紙、ひらがなの字形が分かる練習用紙、半紙の練習用紙を配付する。 ◇姿勢、筆の持ち方、半紙の押さえ方を確認させる。 トン・スー・シュを唱え、筆の動かし方を確認させる。 ◇待つことが苦手な児童には、練習用紙を多めに配っておく。 ◇合図があるまで、静かに練習することを約束する。	児童のめあてカード 練習用紙3種類 練習用半紙
高める・伝える 5分	4 ポイントと自分のめあてを再確認する。 ●手本と比べて、もっと良くするためのアドバイスを出し合いましょう。	◇半紙に書いた文字と手本を比べ、良い字にするためのポイントを確認する。 ◇数人の練習用紙を掲示し、改善点について意見を出させる。 ・ひらがなの丸み、始筆、「つ」のふくらみ、払いの長さなど。	半紙
まとめる 13分 7分	5 「つり」のまとめ書きをする。 6 片付けをする。	◇半紙を4枚配付し、時間を8分間に限定する。集中して取り組むことを約束する。 ◇作品は全て新聞に挟むように指示する。 ◇4枚書き終えた児童は、めあてカードに振りかえりを書かせる。 ◇時間があれば数人に発表させる。 ◇片付け手順カードを示し、手早く動くように指示する。	半紙 手順カード

評価基準A：曲がりの穂先の通り道を理解し、ひらがなの丸みや始筆、払いなどを意識し、字形を整えて書いている。

評価基準B：曲がりの穂先の通り道を理解し、字形を整えて書いている。